闘いなくして安全なし

2024.01.23
No．430

〔発　行〕動労千葉を支援する会
千葉市中央区要町２－８ＤＣ会館
http://dourousien28.kane-tsugu.com/renrakuban/
dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！　定年延長と 65 歳まで働ける職場を！

「紹興酒事件」でも社長昇格

JR東「新社長に喜勢副社長」と発表

「職名に固執し組合運動につながることを防ぐ」

ＪＲ東は1月17日、喜勢副社長を4月1日付で社長に昇格させると発表しました。

喜勢副社長はコロナ禍中の22年6月の懇親会で紹興酒を30本以上あけ、店内で泥酔して嘔吐したり、動けなくなる人が出て、最終的に救急車2台が出動して参加した社員が救急搬送された「紹興酒事件」の主催者です。

喜勢副社長は「乾杯とは杯を乾かすこと」と発言し、参加した社員は「勧められるがまま飲まざるを得なかった」といわれています。しかし、ＪＲ東は「飲酒の強要はなかった」と発表しました。そして、今度は社長にまで昇格させると言っています。

・・・・

18年2月、ＪＲ東は東労組に対して「労使共同宣言失効」を通告しました。当時の冨田社長に「東労組との決別」を強く進言し、労使共同宣言失効への流れを作ったのが喜勢副社長です。人事・労務を担当し、冨田社長時の14年に人事部長になって労組対策を進めてきた人物でもあります。

業務融合化や職名廃止を主導したのも、喜勢副社長です。表向きには「働きがいの創出」「裁量を広げる」などの言葉が使われました。しかし、実際の狙いは「現場で職名に固執することで組合運動につながることを防ぐ」ことだと語られています。

喜勢陽一副社長

労組つぶしや業務融合化、職名廃止などの攻撃を主導。「紹興酒事件」があっても社長昇格が発表された。

「職名」「労働組合」にこだわろう

会社は「紹興酒事件」があっても喜勢副社長をかばい、社長にすると言っています。「労組対策の功労者」ということでそこまでするのは、職場の団結した力を会社が何より恐れているからです。私たちの側も「職名」「労働組合」にこだわることが必要です。

京葉線快速廃止をめぐっては地域の怒りの声に会社が追い詰められ、前代未聞のダイ改見直しに追い込まれています。地域の怒りとともに職場からも声をあげ、3月ダイ改、運輸区廃止・統括センター化、ジョブローテーション撤回へ闘おう。